

地域の魅力を生かした教育で 生徒全員の光る特色を伸ばす

「特産品レシピで甲佐町をPRしたいと考えて、中でも難しいと言われるニラに挑戦してみました」と語るのは、甲佐高校家庭クラブの委員長・酒井静香さん（2年）と副委員長・上野和さん（同）。



甲佐高校家庭クラブ Kosa Highschool Katei Club

甲佐高校の委員会活動として、本町の特産品ニラを活用したスイーツの開発に挑戦。レシピを考案してイベントなどで披露し本町のPRに取り組む。

〔甲佐高校〕

同高の委員会の1つとして環境美化活動などに取り組みつつ、今年度はニラを使った加工食品開発に着手。かりんとうやパウンドケーキなどのレシピ作りに挑んでいる。「最初は、ニラが味と香り

を強く主張した出来で失敗ばかり」と振り返る酒井さん。しかし「回数を重ねることに柔らかな感じの風味が引き出せて、緑の色合いも鮮やかな美味しいスイーツができました」と上野さんは胸を張る。同クラブは体育祭でのおもてなしや「甲佐蚤（のみ）の市」への参加などで、ニラのスイーツを広くPR。「美味しくなったけれど、まだまだ

改良中。来年はニラ料理にも挑戦したい」と意欲を燃やし、「11月7日（土）の甲佐高文化祭と8日（日）の町の産業文化祭でも出品するので、ぜひお越しください」と笑顔で呼び掛ける。

今年95周年を迎えた同高は、「教職員と生徒が共に成長し、一人ひとりの良さを見つけて組み合わせ、生徒全員を伸ばす「共育」を目指しています」と語る山下由美校長。伝統と特色ある新しい取り組みを調和させた教育で、昨年度から就職率も進学率も100%を達成。「地元では当たり前だと感じる甲佐町の自然や地域の良さに生徒たちが気付き、自由な発想発見で魅力を発信できる人材を育てたい」と山下校長。同高の3年間で「人として、地域と世界につながる学びを大切に」と考える。同高の魅力を「行事に生徒全員で盛り上がるころや、先生と率直に話し合いができるころ」と2人は紹介。明るいあいさつにあふれる学び舎から、未来に向けて生徒たちは大きくはばたく。